

市民協働かわら版

No.69



七月二十八日(火) 令和二年度第一回「泉南・市民まちづくりサロン」が泉南市埋蔵文化財センターで開催され、十三名(市民十一名、職員二名)の参加でサロンが始まりました。

【共催：泉南市ABC委員会】

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう中、令和二年四月から六月のまちづくりサロンはお休みとなりました。令和二年度最初のサロンは、三密を避けるため、埋蔵文化財センターのロビーで行いました。サロンでは、文楽鑑賞会、ウミホテル観覧会、街道物語の続編などを考えていましたが、全て中止となり、「コロナが落ち着いたからの実施となります」。今回のサロンはお子様連れの方が多く参加していただきました。サロンは誰でも参加していただいて結構です。子育て世代の街づくり、みんなが楽しく暮らせる街「泉南市」を考えてみました。

◎住んでいるからこそ気付かない！

今回は初参加の方も多かったので、自己紹介のあと、泉南市の良いところはどのテーマで始まりました。生まれも育ちも泉南市の参加者から、「あんまり考えたことないなあ。気候がええ、魚がおいしい、くらいしか思いつかんなあ」との意見ができました。「ただ、泉南育ちで海外に住んでた人が言うてた。泉州ほど住みよいところはない。ビーチも近いし、ゴルフ場も近い。みんな恵まれていることに気づいてない」では、悪いところは？「おしゃれな店やカフェが少ないかな」「打ち解けるまで古い町の人は人見知りがあるかも」「自分の街のいいところを伸ばしていきたいですね。泉南市再発見！

◎SNSを活用しよう！

久しぶりのサロン、以前から考えているSNSの活用方法の話ができました。「コロナの影響で、みんなが集まったの会議が自粛される中、情報伝達のひとつとしてSNSを活用したい。年配の方は難しいかも。今の状況がーTを推進する上でのーTのチャンスがもしれません。お互いに情報を共有する。教育現場に生かす。様々な活用方法があるはずですよ。」

◎今こそサロン

「コロナの影響で、社会の在り方が大きく変わりました。仕事、集会やイベント、学校の授業、遊びや付き合い方など、生活のすべてに影響が及んでいます。今大切なのは不必要な接触を避けつつ、孤立しないようにすることです。お互いに互助の心をもって、普段からの付き合いを大切にすることが重要です。声をかけるだけでも孤立を避けることができます。お互い顔見知りになるためにもサロンにお越しくたさい。雑談のなかに街づくりのヒントが隠されています。」

「アドプト・リバー 樫井川」

樫井川は和泉山脈を源流とする泉南市と泉佐野市の境を流れる二級河川です。泉南市ABC委員会は平成二十一年からアドプト事業の一環として



樫井川の清掃や植樹した桜の管理を行っています。「アドプト」とは「養子縁組」のことです。我が子のように樫井川に接し、綺麗にします。七月二十九日、朝の七時から草刈と清掃を行いました。伸び放題になった河川敷の草を刈ります。梅雨の合間の曇り空の下、額に汗が滴り、草刈機のエンジン音が心地よく響きます。すっかり綺麗になった土手には、みんなで植えた桜の木が青々と茂っています。次は秋の草刈と冬の桜への施肥。四月にはきつと満開の桜の花がみんなをお出迎えしてくれるはずですよ。桜の開花とともに「コロナ禍もおさまっていればいいですね。」

発行：泉南市総合政策部政策推進課

〒五九〇〇五九二 泉南市樽井一ー一

TEL：〇七二一四八三〇〇〇四

(令和二年八月三日発行)